

2007.6.14

シップ・オブ・ザ・イヤー 2006

「わかなつ」に決定

部門賞は「みやじま丸」(小型客船部門)、わかなつ(大型貨物船部門)、
日本丸(特殊船部門)、ULTRA250X(舟艇部門)。
さらに選考委員特別賞が、LNG DREAM に授与

日本船舶海洋工学会が授賞するシップ・オブ・ザ・イヤーは、毎年、日本で建造された話題の船舶の中から、技術的・芸術的・社会的に優れた船を選考して与えられるもので、今年が 17 回目となる。今回からは、7 部門で作品が募集され、4 部門に計 10 隻の応募があった。

シップ・オブ・ザ・イヤー2006 の応募作品発表会と選考委員会は、5 月 25 日にサンシャイン・シティ文化会館(東京 池袋)で開催され、シップ・オブ・ザ・イヤー 2006 の各部門賞として「みやじま丸」(小型客船部門)、わかなつ(大型貨物船部門)、日本丸(特殊船部門)、ULTRA250X(舟艇部門)が選考された。

さらに部門賞の中からシップ・オブ・ザ・イヤー2006 の選考が行われ、大型貨物船部門の RORO 貨物船「わかなつ」が選ばれた。また、あまりマスコミ等に露出せず、縁の下の力持ちとして黙々と働く貨物船を多くの媒体に登場させた功績を称えて、LNG DREAM に選考委員特別賞が授与されることが決まった。授賞式は、日本マリンエンジニアリング学会のマリンエンジニアリング・オブ・ザ・イヤーの授賞式と共に、7 月 20 日に海運クラブにおいて行われる予定である。

なお、選考委員は下記のとおりであり、長年選考委員長を勤められた柳原良平氏が退任され、選考委員の互選により平野拓夫氏が今回より選考委員長に就任した。

選考委員会委員 (順不同)

平野 拓夫 氏	インダストリアル デザイナー
桐島 洋子 氏	作家
種村 国夫 氏	イラストレーター
森本 靖之 氏	日本船長協会 会長
市川 公一 氏	海事プレス社 会長
松田 英三 氏	読売新聞社 論説副委員長
太田 孝 氏	日本経済新聞社 編集局産業部長
鈴木志津子氏	ジャーナリスト
智片 通博 氏	オールニッポンヘリコプター (株) 常務取締役
遠藤 修身 氏	日本海事新聞社 常務取締役
土井全二郎氏	日本海洋調査会 代表

シップ・オブ・ザ・イヤー 2006 選考経過

作品賞「シップ・オブ・ザ・イヤー」は大型貨物船「わかなつ」

今回応募したものから、小型客船、大型貨物船、特殊船、舟艇の4部門の「シップ・オブ・ザ・イヤー最優秀部門賞」の中から特に1点を選んだものである。

「わかなつ」は技術面でもデザイン面でも特に優れていると全選考委員の一致した意見であった。内容については以下の部門賞において説明する。

「シップ・オブ・ザ・イヤー最優秀部門賞」

小型客船部門は「みやじま丸」

特にバリアーフリーデザインに気を配っており、宮島島民の生活航路として重要な役割に合った使いよさと、島民の経済を支える観光客に対するサービスがしやすく、船自身の形態の特異性が印象的である。

大型貨物船部門は「わかなつ」

世界ではじめて開発したオートラッシングの装備によって荷役作業の省力化と荷役作業の時間の短縮化が可能になり、高齢化する作業員の重労働から解放することは大きく評価するところである。また、船のデザインについては船主と作り手である造船会社との美意識に対するこだわりよく表現されていることは、これからの日本の海運界、並びに造船界に対して大きな貢献である。

特殊船部門は「日本丸」

カツオ漁、マグロ漁に対してブイライン投網漁法を可能にしたことは大きく評価できる。大伝馬船を外したことは、この種の従来型単船まき網船としては大きな進歩であり、漁獲率の向上と荒天候時のときの作業の安全性が期待できる。さらに、全体のデザインが優れ、乗組員のアイデンティティが高まる。

舟艇部門は「URTRA 250X」

一般に水上バイクと呼ばれるもので、この艇は特にエンジンの過給機やインタークーラーのコンパクト化に工夫を凝らし、パワーアップと操縦性の向上を図り、全体のデザインを良くまとめた。

「シップ・オブ・ザ・イヤー選考委員特別賞」は「LNG DREAM」

この船は本シップ・オブ・ザ・イヤー本来の趣旨とは異なるという意見が選考委員の中から強く出たが、今回はシップ・オブ・ザ・イヤーの選考の形式と方法が大きく変わったことに伴い、新たなプロモーションの時代に入ることから、イベント性を取り上げ、選考委員会からの特別賞とした。

シップ・オブ・ザ・イヤー
選考委員長 平野 拓夫

授賞作品紹介

シップ・オブ・ザ・イヤー 2006 「わかなつ」

大型貨物船部門賞

シップ・オブ・ザ・イヤー2006を受賞した「わかなつ」は、琉球海運所有の東京・大阪と沖縄を結ぶ RORO 貨物船で、尾道造船で設計され、佐伯造船で建造された。RORO 船では、車両甲板下にエンジンが納まるように、背の低い中速エンジンが使われるのが一般的であるが、上層車両甲板へのランプウェイ下の空間を利用して、背の高い低速エンジンを搭載して省エネ化すると共に、デッキ高さを低くすることによって軽くて効率のよい船型を開発したことと、新しいラッシング装置(車の固定装置)を開発して荷役効率を高めたことが評価された。また、概観デザインも美しいとされた。



船名	わかなつ
船種	RORO 貨物船
船主	琉球海運 (株)
建造会社	設計：尾道造船 (株) 建造：佐伯重工業 (株)
Lpp x B x D - d	155.0 x 26.0 x 10.0-6.70 m
総トン数	10,185 トン
速力	21.5 ノット
主機	MAN-B&W 8 S50MC-C(Mark-8) 13,280kW
積載貨物	40F シャーシ 160 台、 Car 245 台

小型客船部門賞 「みやじま丸」

世界文化遺産厳島神社に調和した環境にやさしい日本初の小型電気推進旅客フェリー。静かな船内、広いバリアフリー客室、高い操船性能が特徴



船名	みやじま丸
船種	小型旅客フェリー
船主	西日本旅客鉄道(株) 鉄道・運輸機構
建造会社	設計：広島電気推進研究会 建造：中谷造船(株)
Lpp x B x D - d	30.0 x 12.0 x 3.6 - 2.54 m
総トン数	254 トン
速力	9.0 ノット
主機	発電用原動機：253kW x 3 発電機：320kW x 3 推進用電動機：400kW x 2
旅客数	800 名

舟艇部門賞 「ULTRA 250X」

4 ストロークエンジンで、2 ストロークエンジンのドライバビリティを超えることに成功したジェットスキー



船名	JET Ski ULTRA 250X
船種	パーソナル ウォーター クラフト
建造会社	設計：川崎重工(株) 建造：Kawasaki Motors Manufacturing Corp., U.S.A
LOA x B x D	3.370 x 1.195 x 1.150 m
総トン数	0.1 トン (乾燥総質量：416kg)
速力	104km/h
主機	JTT50BE 1 8 0 k W
搭載人員	3 名

特殊船部門賞 「日本丸」

ディーゼル・電気ハイブリッドのタンデム型二重反転推進装置の採用による省エネ化と、操縦性の高い投網方式による省人化を実現した次世代型まき網漁船のモデル船



船名	日本丸
船種	海外まき網漁船
船主	(株)日本丸
建造会社	(株)三保造船所
Lpp x B x D - d	65.00 x 13.40 x 7.50 - 4.93 m
総トン数	744 トン
速力	17.806 (公試最大速力)
主機	主：6MG 3 4 MX 2,647kW 副：NTIKE=RCKM5 1,103kW
積載貨物	大型回遊魚 魚倉倉容積：1,365m ³

選考委員特別賞 「LNG DREAM」

LNG タンクをキャンパスとして、ジミー大西画伯と子供たちによる「夢のある未来」を表現した絵を描いたユニークな液化天然ガス運搬船。めったに市民の目には入らない船だが、タンクに描いたイラストが評判となり、多くのマスコミに取り上げられ、船の重要性を広くアピールした。



船名	LNG DREAM
船種	Moss 型 LNG タンカー
船主	Lloyds TBS Equipment Leasing No.7 Ltd
建造会社	川崎造船 (株)
Lpp x B x D - d	277.0x49.0x27.0x11.4 m
総トン数	118,876 トン
速力	19.5 ノット
主機	スチームタービン
積載貨物	LNG 約 145,000m ³

問い合わせ

(社) 日本船舶海洋工学会 (荻原)

〒105-0012 東京都港区芝大門 2-12-9

浜松町矢崎ホワイトビル

TEL : 03-3438-2014、2015 FAX : 03-3438-2016